

# 赤ずきんちゃん

ROTKAPPCHEN

グリム兄弟 Bruder Grimm

青空文庫



むかし、むかし、あるところに、ちいちゃいかわいい女の子がありました。それはたれだつて、ちよいとみただけで、かわいくなるこの子でしたが、でも、たれよりもかれよりも、この子のおばあさんほど、この子をかわいがっているものはなく、この子を見ると、なにもかもやりたくてやりたくて、いったいなにをやっているのかわからなくなるくらいでした。それで、あるとき、おばあさんは、赤いびろうどで、この子にずきをこしらえてやりました。すると、それがまたこの子によく似あうので、もうほかのものは、なんにもかぶらないと、きめてしまいました。そこで、この子は、赤ずきんちゃん、赤ずきんちゃん、とばかり、よばれるようになりました。

ある日、おかあさんは、この子をよんでいいました。

「さあ、ちよいといらっしゃい、赤ずきんちゃん、ここにお菓<sup>かし</sup>子がひとつと、ぶどう酒<sup>しゅ</sup>がひとびんあります。これを赤ずきんちゃん、おばあさんのところへもっていらっしゃい。おばあさんは、ご病気でよわつていらっしゃるが、これをあげると、きっと元気になるでしょう。それでは、あつくならないうちにおでかけなさい。それから、そとへでたら気をつけて、おぎようぎよくしてね、やたらに、しらない横道へかけだしていつたりなんかし

ないのですよ。そんなことをして、ころびでもしたら、せつかくのびんはこわれるし、おばあさんにあげるものがなくなるからね。それから、おばあさんのおへやにはいったら、まず、おはようございます、をいうのをわすれずにね。はいると、いきなり、おへやの中をきよるきよるみまわしたりなんかしないでね。」

「そんなこと、あたし、ちゃんとよくしてみせてよ。」と、赤ずきんちゃんは、おかあさんにそういつて、指きりしました。

ところで、おばあさんのおうちは、村から半道はなれた森の中になりました。赤ずきんちゃんが森にはいりかけますと、おおかみがひよっこりできてきました。でも、赤ずきんちゃんは、おおかみつて、どんなわるいけだものだからりませんでしたから、べつだん、こわいとおもいませんでした。

「赤ずきんちゃん、こんちは。」と、おおかみはいいました。

「ありがとう、おおかみちゃん。」

「たいそうはやくから、どちらへ。」

「おばあちゃんのところへいくのよ。」

「前かけの下にもってるものは、なあに。」

「お菓子に、ぶどう酒。おばあさん、ご病気でよわっているでしょう。それでおみまいにもってつてあげようとおもって、きのう、おうちで焼いたの。これでおばあさん、しっかりなさるわ。」

「おばあさんのおうちはどこさ、赤ずきんちゃん。」

「これからまた、八、九町ちようもあるいてね、森のおくのおくで、大きなかしの木が、三ぼん立っている下のおうちよ。おうちのまわりに、くるみの生垣いけがきがあるから、すぐわかるわ。」

赤ずきんちゃんは、こうおしえました。

おおかみは、心の中でかんがえていました。

「わかい、やわらかそうな小むすめ、こいつはあぶらがのって、おいしそうだ。ばあさまよりは、ずっとあじがよかろう。ついでにりょうほういっしょに、ぱっくりやるくふうがかんじんだ。」

そこで、おおかみは、しばらくのあいだ、赤ずきんちゃんとならんであるきながら、道みちこう話しました。

「赤ずきんちゃん、まあ、そこらじゅうきれいに咲いている花をごらん。なんだって、ほ

うぼうながめてみないんだろうな。ほら、小鳥が、あんなにいい声で歌をうたっているのに、赤ずきんちゃん、なんだかまるできいていないようだなあ。学校へいくときのよう、むやみと、せつせこ、せつせこと、あるいているんだなあ。そとは、森の中がこんなにあかるくてたのしいのに。」

そういわれて、赤ずきんちゃんは、あおむいてみました。すると、お日さまの光が、木と木の茂った中からまれて、これが、そこでもここでも、たのしそうにダンスしていて、どの木にもどの木にも、きれいな花がいっぱい咲いているのが、目にはいりました。そこで、

「あたし、おばあさまに、げんきでいきおいのいいお花をさがして、花たばをこしらえて、もってつてあげようや。するとおばあさん、きつとおよろこびになるわ。まだ朝はやいから、だいじょうぶ、時間までに行かれるでしょう。」

と、こうおもって、ついと横道から、その中へかけだしてはいつて、森の中のいろいろの花をさがしました。そうして、ひとつ花をつむと、その先に、もつときれいながあるんじゃないか、という気がして、そのほうへかけて行きました。そうして、だんだん森のおくへおくへと、さそわれて行きました。

ところが、このあいだに、すきをねらって、おおかみは、すたこらすたこら、おばあさんのおうちへかけていきました。そして、とんとん、戸をたたきました。

「おや、どなた。」

「赤ずきんちゃんよ。お菓子とぶどう酒を、おみまいにもって来たのよ。あけてちょうだい。」

「とつ手をおしてくれ。おばあさんはご病気でよわっていて、おきられないのだよ。」  
おおかみは、とつ手をおしました。戸は、ぼんとあきました。おおかみはすぐとはいって、なんにもいわずに、いきなりおばあさんのねているところへ行つて、あんぐりひと口に、おばあさんのみこみました。それから、おばあさんの着物を着て、おばあさんのずきんをかぶつて、おばあさんのお床とこにごろりと寝て、カーテンを引いておきました。

赤ずきんちゃんは、でも、お花をあつめるのにむちゆうで、森じゆうかけまわっていました。そうして、もうあつめるだけあつめて、このうえ持ちきれないほどになったとき、おばあさんのことをおもいだして、またいつもの道にもどりました。おばあさんのうちへ来てみると、戸があいたままになっているので、へんだとおもいながら、中へはいりまし

た。すると、なにかが、いつもとかわつてみえたので、

「へんだわ、どうしたのでしょうか。きょうはなんだか胸がわくわくして、きみのわるいこと。おばあさんのところへくれば、いつだつてたのしいのに。」と、おもいながら、大きな声で、

「おはようございます。」

と、よんでみました。でも、おへんじはありませんでした。

そこで、お床とこのところへいつて、カーテンをあけてみました。すると、そこにおばあさんは、横になっていましたが、ずきんをすっぽり目までさげて、なんだかいつもとようすがかわっていました。

「あら、おばあさん、なんて大きなお耳。」

「おまえの音が、よくきこえるようにさ。」

「あら、おばあさん、なんて大きなおめめ。」

「おまえのいるのが、よくみえるようにさ。」

「あら、おばあさん、なんて大きなおてて。」

「おまえが、よくつかめるようにさ。」

「でも、おばあさん、まあ、なんてきみのわるい大きなお口なこと。」

「おまえをたべるにいいようにさ。」

こういうがはやいか、おおかみは、いきなり寢床からとびだして、かわいそうに、赤ずきんちゃんを、ただひと口に、あんぐりやってしまいました。

これで、したたかおなかをふくらませると、おおかみはまた寢床にもぐって、ながながと寝そべって休みました。やがて、ものすごい音を立てて、いびきをかきだしました。

ちようどそのとき、かりうどがおもてを通りかかって、はてなと思つて立ちどまりました。

「ばあさんが、すごいいびきで寝ているが、へんだな。どれ、なにかかわったことがあるんじゃないか、みてやらさばなるまい。」

そこで、中へはいつてみて、寢床のところへ行つてみますと、おおかみが横になっていました。

「ちきしよう、このばちあたりめが、とうとうみつけたぞ。ながいあいだ、きさまをさがしていたんだ。」

そこで、かりうどは、すぐと鉄砲をむけました。とたんに、ふと、ことによると、おおかみのやつ、おばあさんをそのままのままでいるのかもしれないし、まだなかで、たすかっているのかもしれないぞ、とおもいつきました。そこで鉄砲をうつことはやめにして、そのかわり、はさみをだして、ねむっているおおかみのおなかを、じよきじよき切りはじめました。

ふたはさみいれると、もう赤いずきんがちらと見えました。もうふたはさみいれると、女の子がとびだしてきて、

「まあ、あたし、どんなにびつくりしたでしょう。おおかみのおなかの中の、それはくらいつたらなかつたわ。」と、いいました。

やがて、おばあさんも、まだ生きていて、はいだしてきました。もう、よわって虫の息になっていました。赤ずきんちゃんは、でも、さつそく、大きなごろた石を、えんやらえんやらはこんできて、おおかみのおなかのなかにいっぱい、つめました。やがて目がさめて、おおかみをとびだそうとしますと、石のおもひでへたばりました。

さあ、三人は大よろこびです。かりうどは、おおかみの毛皮をはいで、うちへもつてかえりました。おばあさんは、赤ずきんちゃんのもつてきたお菓子を食べ、ぶどう酒をの

みました。それで、すっかりげんきをとりかえました。でも、赤ずきんちゃんは、（もうもう、二どと、森の中で横道にはいつて、かけまわったりなんかやめましょう。おかあさんがいけないと、おっしやったのですものね。）と、かんがえました。



## 青空文庫情報

底本：「世界おとぎ文庫（グリム篇）森の小人」小峰書店

1949（昭和24）年2月20日初版発行

1949（昭和24）年12月30日4版発行

※原題の「[ROTKA:PPCHEN]」は、ファイル冒頭ではアクセント符号を略し、「ROT  
KAPPCHEN」としました。

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、  
底本の表記をあらためました。

入力：大久保ゆう

校正：浅原庸子

2004年4月29日作成

2005年11月19日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 赤ずきんちゃん

## ROTKAPPCHEN

2020年 7月17日 初版

### 奥 付

発行 青空文庫

著者 グリム兄弟 Bruder Grimm

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>